

別記様式（第6条関係）

会議録

会議の名称	第28回子ども・子育て会議				
開催日時	令和6年11月22日（金）	開会	10時00分		
		閉会	11時00分		
開催場所	岩出市総合保健福祉センター 3階 視聴覚室				
議長(委員長・会長)の氏名	桑原 義登 委員				
出席者(委員)の氏名	笠松 尚子 委員、芝崎 真由 委員、鈴木 衣里 委員、岸田 友美 委員、菊地 佐知子 委員、土生川 覚弥 委員、葛葉 真純 委員、村田 実 委員、下地 咲紀 委員、谷本 美佐子 委員、桑原 義登 委員、金川 めぐみ 委員、松本 美早子 委員、南 智明 委員、竹田 加代子 委員、西村 美穂 委員				
欠席者(委員)の氏名	梅田 益己 委員、松本 千賀子 委員、				
説明等のために出席した者の氏名等	株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 谷内田 好広、里田 雅樹				
事務局職員の職氏名	子ども家庭課長 福田 勝夫、生涯学習課長 湯葉 美奈子、 子ども家庭課こども家庭センター長 塩中 和歌子、 子ども家庭課副課長 西口 朗弘				
会議事項	議題 ①岩出市こども計画の素案について ②ワークショップ案について	会議結果 「会議の経過」のとおり			
会議の経過	別添のとおり				
会議資料	別添のとおり				
会議録の確定	確定年月日	記名押印			
	令和6年12月16日	役職名 岩出市子ども・子育て会議会長			

会議の経過

議題・決定又は確認事項等

1. (開会)

10時00分

2. 【議事概要】

①岩出市こども計画の素案について

<資料「岩出市こども計画（素案）」に基づき、事務局より説明>

(会長)

ご意見、ご質問等はないか。

(A委員)

第5章の提供体制の確保を中心に説明していただいたが、確保内容の記載方法がよくわからない。例えば48ページの教育・保育量では、量の見込みはニーズ調査から推計数を出したもので、確保内容は定員数だと思う。それで、②から①を引くとプラスになっているという形で書かれているが、51ページ以降の地域子ども・子育て支援事業の確保内容はこの記載方法で大丈夫なのか。例えば51ページの2つ目の「学童保育」は、量の見込みはニーズ量のアンケート調査等で、実ニーズで使われているものから推計して、少子化の場合、減っていくという見込みで、低学年、高学年を立てられていると思う。確保の内容は、先ほどの教育・保育の確保内容からすれば、岩出市における定員数になるかと思うが、人数に合わせて減っていくのであれば、親御さんは心配だろう。通常は確保の内容は、74ページの（17）「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の状況」の令和6年度の確保数、ないしは、整備されている人数があれば定員数、ないしは、それを増やすとか減らすとかいう将来の算段があれば、それが確保内容になるのではないか。一方、53ページの妊産婦の健診事業については、確保内容は実人数だと思う。乳幼児の全戸訪問事業も、この当時生まれてきた赤ちゃんのご家庭数が確保内容になっていて、「②-①」の差がないのだと思う。その辺りの記載の方法について、どういう書き方にするか、もう一回確認していただき

たい。例えば52ページの病児保育は、実人数で量の見込みと確保の内容が一緒だが、通常はベッド数で出すのではないか。

55ページの、数値が「0」になっているところは、まだ厚労省から算定の方法がはっきり示されていないので0にされているのだと思うが、次回までに数値が入るのか。

(事務局)

1点目の、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策については、特に手引きで示されていないため、確保方策を書くほうが望ましいのか、量の見込みだけを書いたほうがいいのかをベンダーさんと協議して、今回は確保法策を出した。A委員さんがおっしゃるように、学童保育などは定員という概念があるので、量の見込みに対して十分余裕のある数を示せると思う。ただ、事業によっては、実人数イコール確保法策という事業もある。そこは次回までに再度協議して、次回お示しさせていただく。確保内容を定員で書けるものについては、例えば病児保育は1日の定員が3名なので、それから算出して確保数を書けるかと思う。

(A委員)

保護者がこのページを見るかどうかわからないが、市民に対する安心感として、例えば48ページであれば、保育所を使える人がこれくらいで、定員はこれくらいあるから大丈夫というふうに、確保されていることがきちんと見えたほうがいいと思う。確かに実人数で書かなければいけないものもあるが、少し精査していただければと思う。

(事務局)

分かりました。次回までにもう少し詰めて、きちんと説明できるようにする。

2点目の、55、56ページの新規事業の0が入っているところについては、次回までに見込み量と確保内容を数値化して出したいと思う。

1点修正がある。国の新規事業の55ページの「子育て世帯訪問支援事業」

は、今、〇が入っているが、54ページの「養育支援訪問事業」が来年度から名称変更になって、「子育て世帯訪問支援事業」になると聞いている。この表記の仕方についても、新規事業で出すのか、養育支援訪問事業の名称変更という形で出すのかを協議し、次回、修正したものをお示しする。

(会長)

こども家庭センターや、適応指導教室も教育支援センターに名称が変わっている。そういうものは適宜入れられているようだ。
他にはないか。

(A委員)

第4章の「施策の展開」の、例えば31、35、36ページなどで、「他自治体計画に入っている施策（参考）」というものが載っているが、これはどういう扱いで置かれているのか。岩出市にも入れたほうがいいということなのか、単なる紹介なのか。これが残っていると「他自治体では取り組んでいるのに岩出市ではやらないのか」ということになるのではないか。

(事務局)

これは、岩出市で該当する事業がないかどうかを確認していただくためと、加えて、今回、子ども・子育て支援事業計画からこども計画に変わるという流れで、現在検討中の事業等もあったので、委員の皆様にもイメージしていただけるように、参考に載せているものである。次の計画の素案では、これは削除する。

(A委員)

これを事業として入れるのは、場合によれば市長のところまで持っていくかなければいけないので、ご苦労されていることは重々承知しているが、例えば、41ページの「ひとり親家庭への支援」においては、貧困の連鎖を防ぐために、参考の中にあるような、女性の就労支援や、あるいは、こどもに対する学習支援がとても重要である。さらに言えば、兵庫県の明石市などでは、

例えば養育費・面会交流についてかなり積極的な独自施策を行っている。岩出市は母子・寡婦の自立促進計画は策定されていないと思うので、ひとり親や困難な状況にある人の支援は、この41ページで書くしかないのだが、少し手薄に感じる。岩出市は、ひとり親や離婚率はそれほど高くないので、必要ないと思われているのかもしれないが、ほかでフォローする計画がないので、困難な状況にあるご家庭に対してもう少し踏み込んで、事業立てなども意識してほしい。財源や人手、決裁の関係もあるので無理は言わないと、他自治体ではできているので指摘させていただいた。

(会長)

事務局からコメントはないか。

(事務局)

ご指摘の点は、確かにそのように感じる。

(会長)

他にございませんか。

(B委員)

市民の意見として、28ページに書かれている「49 アリーナで遊ぼう事業」について、これは2カ月に1回くらいの少ない頻度で行われている事業だと思う。ここに載せるのであれば、もう少し頻度を増やすとか、どういう目的でやっているのかをきちんと精査して載せていただきたい。名ばかりで載せるのはどうかと思う。

(C委員)

「アリーナで遊ぼう事業」は、総合体育館のアリーナを開放して遊んでもらう事業で、年間10回くらい開催している。開催する際は生涯学習課のほうでPRをしているが、今のところ、ニーズはそれほど高くないと把握している。これは今後も継続していくので、ニーズが増えれば、事業の拡大に向

けて生涯学習課で考えていきたいと思う。

(会長)

よろしいか。

(B 委員)

はい。大丈夫です。

(会長)

他にないですか。

これは承認事項か。決定するものではなく、ご意見があればまた出してもらうという形でよいか。

(事務局)

はい。

(会長)

それでは、ご意見等があればまた出していただければと思う。

他になければ、次に進めさせていただく。

②ワークショップ案について

<資料「ワークショップ運営プログラム（案）」に基づき、事務局より説明>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。

(A 委員)

ワールドカフェ方式でワークショップを行うことは賛成である。ただ、ワールドカフェの方式はある程度人数がいないと成立しないので、基本は公募

という形にして、別に小学校、中学校、高校などに声掛けをして、人を出していただく必要があると思う。声掛けをした場合、いい子が来るため偏りが出るかもしれないが、多くの子どもの声を聞くことが大事で、人数が多いほうが効果があるので、公募で人が集まらなかつた場合はそういうことをお願いしたい。

(会長)

年齢は縦割りなのか。小学生だけ、中学生だけのような形にするのか。その辺はどのようにお考えか。

(事務局)

今のところ、中学生、高校生、大学生が交ざる形を考えている。年代が違う参加者がいらっしゃることでの化学反応もあるのではないかと考えている。

(会長)

保護者、関係機関、学校等も見学できるといいのではないかと思うが、いかがか。

(A委員)

子どもの意見に干渉してしまってもいけないので、邪魔をしない程度にすべきだ。

(C委員)

見たい人はオンラインで見てもらい、現場は子どもたちだけという形にしてはどうか。

(会長)

初めての試みなので、いろいろと改良しながら、子どもたちの意見を吸い上げていただくようお願いする。

(事務局)

承知した。大学生については、会長、副会長にもご協力いただきたい。

(会長)

他にはよろしいか。

3. その他

(会長)

その他として、全体を通じてのご意見などないか。

なければ、事務局から何かあるか。

<資料「岩出市こども計画 計画名（案）ご意見シート」に基づき、事務局より説明>

(事務局)

ワークショップは、令和7年1月11日土曜日の午前10時から、岩出市総合保健福祉センターにて開催予定である。ご希望があれば、委員の皆様にも様子をご覧いただければと思っている。

今後の予定としては、パブリックコメントを12月から1月の間に実施する。そこで市民の皆様から意見をいただき、計画に反映する。次回会議は2月を予定している。その中で計画案の承認をいただきたいと考えている。委員の皆様から修正などの意見がある場合は、11月29日までにいただきたい。修正後の計画案は、最終的に会長及び副会長が承認するという形で委員の皆様に一任していただきたいと考えている。次回会議が委員の皆様方の任期の最後の会議となる。会議日程が決まり次第案内を送付するので、ご出席をよろしくお願いする。

(会長)

事務局から、修正後の計画案の最終確認は会長・副会長に一任とさせていただきたいとの説明があったが、皆様、それでよろしいか。

(一同異議なし)

(会長)

他にご意見はないか。

(D委員)

ワークショップについて、1月11日土曜日という説明があったが、小学生の受験がちょうどこの時期にあたるのではないか。また、私学は土曜日も授業がある。先日、小学校の運営委員会で、15%くらいが市外の学校に行っていると聞いた。そうなると人数的に相当数になるので、日程についてもう少し検討されるといいのではないかと思った。

(会長)

他にはよろしいか。

たくさんのご意見をいただきお礼申し上げる。ご意見を参考に計画に反映していただくよう、よろしくお願ひする。

以上で本日の議事は全て終了した。事務局に進行をお返しする。

(事務局)

会長、ありがとうございました。

本日、皆様からいただいた貴重なご意見は計画に反映していきたい。今後も引き続き岩出市の子ども・子育て支援にご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひする。

以上をもって、岩出市子ども・子育て会議を閉会する。

【閉会】

11時00分閉会